

VI 生活排水処理

1. 生活排水（し尿・浄化槽汚泥）処理の現状

(1) 収集運搬

現在、し尿収集は全面委託の体制とし、し尿浄化槽汚泥の収集は許可業者が実施している。

近年の収集状況について、し尿収集量は下水道の普及により年々減少の傾向にあり、し尿収集車両の減車が行われている。

また、浄化槽汚泥の収集量についても年々減少の傾向がみられる。

(2) 処理施設

昭和56年2月に稼働した東部クリーンセンター（200kℓ/日）において処理をしている。（※平成21年3月までは処理能力300kℓ/日）

この処理施設は、地下方式を採用し、周辺との景観に配慮した上で処理水質の向上、臭気対策等厳しい公害対策を講じている。

さらに、周辺地域の住環境の向上と調和を図るために周辺施設を公園化し、地域住民をはじめ広く市民の憩いの場・健康づくりの場として活用できるよう各種スポーツ施設・集会所・老人福祉センターを設置し、地域の文化施設の核としての位置づけされた施設を兼ね備えている。

また、現状の処理施設について、長年使用により設備の機能が低下してきているものについては、計画的に施設整備を実施している。

(3) 今後の問題点

下水道の普及が進み、し尿・浄化槽汚泥が減少した時に処理等について新たな施設の維持管理が必要になって来る。

(4) 生活排水処理基本計画（し尿処理計画：旧名称）

平成3年度事業として、前述の問題解決の方向性等を定めた生活排水処理基本計画を策定した。

この計画は、生活排水（し尿・浄化槽汚泥）の処理だけに絞ったものではなく、図（次ページ）のような体系のもとに位置づけされ、生活排水対策推進計画と密接な関係をもっている。

なお、平成24年度には計画の見直しを行った。

生活排水処理基本計画体系図



